

その感動を、わかちあう。



アサヒ飲料 環境データブック 2018

目次

●環境ビジョン	1
●環境マネジメント	2
●マテリアルバランス	5
●環境会計	6
●環境行動計画	7
●ISO14001 実施計画	8
●データ集 （物流・自販機・オフィス・工場）	9
●ガイドライン	12

対象報告範囲

アサヒ飲料（株）単体

報告期間

2017年度（2017年1月～2017年12月）の活動を中心に
それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

環境ビジョン

アサヒグループ 環境ビジョン 2020 —自然の恵みを明日へ—

アサヒグループは、水や穀物など、自然の恵みを用いて事業活動を行っています。

地球環境や人間社会が持続可能なものであってはじめて、私たちは、お客様に、安全・安心な製品をお届けすることができます。

現在、地球環境の変化は、あらゆる企業や生活者に早急かつ具体的な対応を求めています。

私たち人間が、地球環境と共生していく社会を形成することは、人類共通の使命でもあります。

アサヒグループは、「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「生物多様性の保全」「自然の恵みの啓発」という4つのテーマを柱として、環境の課題に対して積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

環境ビジョン 2020 で策定した4つのテーマ

分類	内容
低炭素社会構築への貢献 CO ₂ を減らそう 	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての事業拠点で、CO₂排出量の削減をめざします。 ※2020年CO₂排出量30%削減(2008年比) ● 環境負荷の少ない商品を開発し、お届けします。 ● 製造工程を見直し、CO₂排出量を減らします。 ● 省エネ自販機の導入をすすめます。 ● 自然エネルギーを活用し、積極的にその利用を推進します。 ● CO₂排出量の削減を、グローバルに展開します。
循環型社会構築への貢献 資源を循環させよう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物再資源化100%の更なる追求をいたします。 ● 包装資材の環境負荷低減をすすめます。 ● 環境負荷の少ない容器を開発します。 ● 繰り返し使える容器の普及につとめます。
生物多様性の保全 自然の恵みを守ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「生物多様性宣言」を策定し、実践します。 ● 生物多様性に配慮した商品を開発し、お届けします。
自然の恵みの啓発 自然の恵みの大切さを伝えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境への取り組みを発信し、社会全体の活動へつなげます。 ● 環境のことを考え、行動できる人材を育てます。

環境マネジメント

アサヒ飲料グループ 環境方針

基本理念

私たちが健康で豊かな生活を営むためには、地域や地球の美しい自然に恵まれた環境が必要であります。
この地域、地球をできるだけ健全な状態で、次代に引き継ぐことが現在の私たちに与えられた責務であると自覚致します。
我が社は、その事業活動を通して、環境の負荷低減に積極的に取り組み、環境保全型社会を築くために考え行動いたします。

行動指針

- 社会のルールを遵守することはもとより、環境負荷を低減する社内体制の整備と社員の意識の高揚に努めます。
- 研究開発、原材料調達、生産、流通、販売・サービスにおいて環境に及ぼす影響を評価し、環境保全に配慮した商品開発、技術開発に努めます。
- 省エネルギーを推進し、CO₂・フロンなどの温室効果ガスの排出削減に努めます。
- 省資源を推進し、廃棄物の削減に努め、資源のリサイクルに取り組みます。
- 企業市民として、地域社会との共生に努め、社会の環境活動にも積極的に参加致します。
- 私たちにとって貴重な「水」を大切にし、健全な水循環への配慮に努めます。
- 環境への取り組みを適切に情報開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。

 アサヒグループ環境基本方針 <http://www.asahigroup-holdings.com/csr/environment/policy.html>

環境マネジメント

■ ISO14001 認証取得状況

アサヒ飲料グループでは、2000年より各事業場単位で認証を取得し、環境活動を展開してきました。より効率的で実効性の高い全社レベルでの環境マネジメントシステムへ移行させるため統合認証を取得しました。

アサヒ飲料グループ 環境マネジメントシステム取得状況

工場/事業所	認証取得
カルピス（株） 岡山工場	2000年6月
アサヒ飲料（株） 北陸工場	2000年9月
アサヒ飲料（株） 明石工場	2000年10月
カルピス（株） 群馬工場	2000年12月
カルピス（株） 全社	2003年6月
アサヒ飲料（株） 富士山工場	2006年7月
アサヒ飲料（株） 六甲工場	2015年9月
アサヒ飲料（株） 本社・支社・支店	2016年4月
アサヒ飲料グループ 統合認証	2016年6月

■ ISO14001 外部審査

2017年は、ISO14001規格の認証維持のため、外部認証機関による審査を受審しました。その結果、不適合となる指摘事項はありませんでした。

審査実施機関：2017年3月22日～4月13日（7日間）

監査対象拠点：本社9部署、2支社3支店、3工場

■ ISO14001 内部環境監査

アサヒ飲料グループの環境マネジメントシステムがISO14001規格に適合し、適切に実施・維持管理されていることを確認するため、環境内部監査年間計画に沿って、教育訓練を受けた社内の監査員が各事業場を訪問し環境法令の順守状況や実施計画の進捗状況等を検証しています。2017年は、4部門で14件の不適合事項が抽出されましたが、いずれも計画的に是正対応を進めており、再発防止に努めています。また、他事業場への模範となる良い事例を見つけ、会議体で水平展開することにより改善に努めています。自部署の環境マネジメントの運用状況を検証するため、定期自主監査を実施しています。

監査実施期間：2017年6月1日～2017年11月28日

監査対象拠点：2統括本部、5支社、4支店、4工場

環境関連の重大事故・苦情発生状況

アサヒ飲料グループは、ISO14001の管理手法に基づいて環境リスクの把握や抑制に取り組んでいます。2017年度、アサヒ飲料グループにおいて環境に関わる重大な事故・苦情はありませんでした。

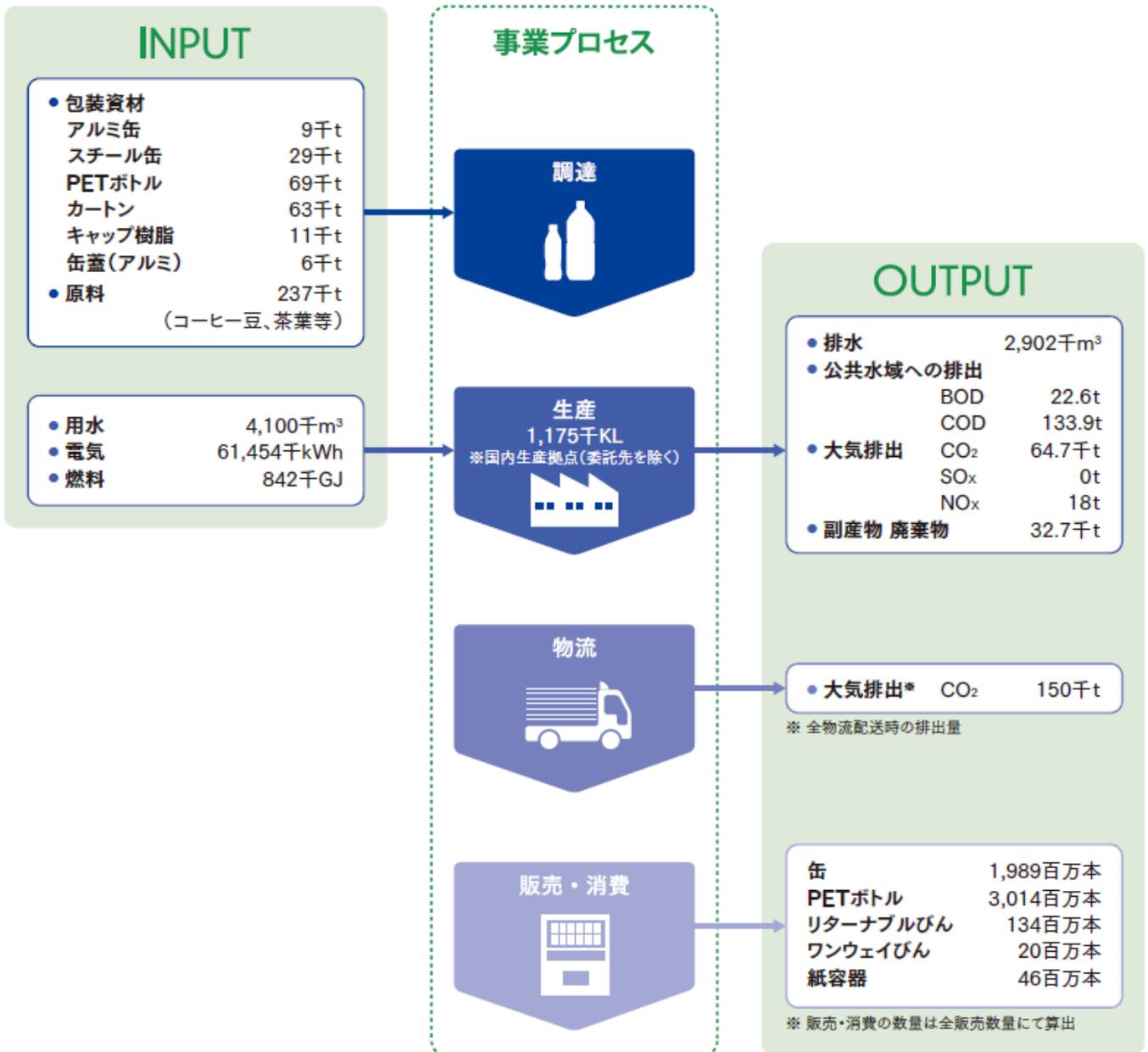
環境教育

環境マネジメントのより効果的な推進のために、それぞれの対象者に合わせて環境教育を実施しています。全従業員、新入社員には、環境活動に関する基本的な知識と自覚を持つ事を目的に環境一般教育を、ISO推進担当者には、事業場相互の内部監査を実施出来るスキルの取得を目的とした内部監査員養成研修などを実施しています。

名称	対象者	実施日	人数
環境一般教育	新入社員	5月	35名
	全従業員	11月～12月	全従業員
内部監査員養成研修	2015年版：内部監査員養成研修 受講者	3月16日：支社推進担当者	14名
		4月26日：本社推進担当者	11名
		12月22日：本社・支社合同	支社：8名、本社：17名
環境管理責任者教育	事業場長	9月15日：営業部門・ マーケティング部門	55名
		11月17日：生産部門・管理部門	19名
環境リスクセミナー	法令対応担当者	11月30日	35名
専門教育	専門知識・資格を要する業務従事者	各事業場にて対応	各事業場にて対応

マテリアルバランス

集計対象：アサヒ飲料（株） 対象期間：2017年1月～12月



環境会計

集計対象：アサヒ飲料（株） 対象期間：2017年1月～12月

環境保全コスト（単位：百万円）

分類	主な取り組みの内容	2017年度		2016年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
【1】 事業エリア内コスト (主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト)		597	659	249	1,353
① 公害防止コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気汚染、水質汚濁防止活動 ● 公害防止設備の保守・点検 ● 大気・水質等の分析、測定 	48	162	178	582
② 地球環境保全コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● オゾン層破壊防止の取り組み (工場の脱フロン化等) ● 省エネルギー活動 	463	272	30	227
③ 資源循環コスト	<ul style="list-style-type: none"> ● 工場廃棄物再資源化への取り組み ● リサイクル推進活動 ● 廃棄物処理設備の導入 	86	225	41	544
【2】 上・下流コスト (主たる事業活動にともなってその上流または下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト)	<ul style="list-style-type: none"> ● 容器・包装再商品化委託料 	0	297	0	333
【3】 管理活動コスト (管理活動における環境保全コスト)	<ul style="list-style-type: none"> ● ISO14001 取得・維持のための取り組み ● 環境教育のための費用 	0	87	0	93
【4】 研究開発コスト (研究開発活動における環境保全コスト)	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲料研究所における環境保全に係る研究・開発 	9	106	30	134
【5】 社会活動コスト (社会活動における環境保全コスト)	<ul style="list-style-type: none"> ● 公害賦課金等 ● 緑地管理費用 ● リサイクル団体会費 	0	41	0	42
【6】 環境損傷対応コスト (環境損傷に対応するコスト)		0	0	0	0
合計		606	1,190	279	1,955

環境保全効果（環境保全対策にともなう経済効果）（単位：百万円）

効果の内容	2017年度	2016年度
廃棄物再資源化による有価物の売却収入総額 ^{※1}	31	30
産業廃棄物減容化施策による費用削減金額 ^{※2}	0	28
省エネルギー施策による費用削減額 ^{※3}	50	54
合計	81	112

※1 廃棄物再資源化にともない、売却によって得られた収入の総額のみを記載しました。

※2 当年度実施の施策によって減容化できた効果額を記載しました。

※3 当年度実施の施策によって得られたエネルギー削減効果額を記載しました。

当該期間の設備投資の総額（単位：百万円）

分類	2017年度	2016年度
設備の更新、品質改善及び合理化のための投資等	7,943	1,494

環境行動計画

達成基準の評価：100% 以上 ★★★/95% 以上 ★★/95% 未満 ★

テーマ	2017年目標		2017年実績	評価
CO ₂ を減らそう	工場のCO ₂ 排出抑制	燃料+電力原単位： 前年比1.0%削減	前年比0.9%増	★★
	物流車両のCO ₂ 排出原単位	CO ₂ 排出原単位： 前年比1.0%削減	前年比1.8%削減	★★★
	営業拠点でのCO ₂ 排出原単位削減	オフィス：人員計画に基づくCO ₂ 排出見込に対し1.0%削減	前年比16.9%削減	★★★
		営業車両：売上成長率に基づくCO ₂ 排出見込に対し、1.0%削減	前年比8.4%削減	★★★
資源を循環させよう	全生産拠点で再資源化100%維持継続		全生産拠点で再資源化100%維持継続	★★★
	用水原単位:4.30m ³ /kl		4.35m ³ /kl	★
	営業拠点での再資源化推進（グループ定義による）		事業場への監査時に運用管理・法令順守状況を確認：不適合2件	★
	1) 植物由来PETボトルの展開継続		明石工場一部対象商品にて展開	★★★
	2) 植物由来キャップの展開		明石工場一部対象商品にて展開	★★★
	3) バイオマスラベルの展開継続		1,500万ケース展開	★★★
	4) BtoBの展開継続		開発継続	★
	5) エコスタイルキャップの展開拡大検討		530万ケース展開	★★★
販促品使用率目標99%以上		販促品使用率99%	★★★	
自販機ダミーPOP使用率98.3%以上		自販機ダミーPOP使用率92.5%	★	
自然の恵みを守ろう・自然の恵みの大切さを伝えよう	地域・社会への貢献	森林・水源地保全活動の推進	・北陸工場 水源地保全活動実施 ・富士山工場 富士山麓ブナ林創造事業へ参加 ・北海道支社 アサヒビール社主催水源地保全活動へ参加	★★★
		地域および社内美化活動参加の推進	・本店 吾妻橋クリーンアップ活動 ・明石工場 場外クリーンアップ活動 ・北陸工場 クリーン入善7125大作戦 ・富士山・富士吉田工場 工場外周清掃 ・カルピス群馬工場 茂林寺を守る会清掃活動 ・カルピス岡山工場 総社市クリーン作戦 ・中国支社 平和記念公園清掃活動 ・四国支社 サンポート高松・中央通り一斉清掃 ・九州支社 ラブアース・クリーンアップ	★★★
	環境コミュニケーション活動の推進	環境コミュニケーション活動の推進	・こうべ森の小学校・森のようちえんへの活動支援 ・環境報告書HPの公開	★★★
		環境教育啓発活動の推進	・三ツ矢サイダージュニア環境授業の実施（25校、延べ参加人数1,650人） ・環境事業場パネルの制作	★★★

ISO14001 実施計画

2018年より、ISO14001（2015年版）の運用に伴い、組織ごとの計画の策定・運用に変更しました。

	2018年目的・目標
アサヒグループ経営重点課題	①オフィスにおけるCO ₂ 排出量の削減：前年実績以下 ②営業車両におけるCO ₂ 排出量の削減：前年実績以下 ③全社工場 燃料+電力使用量（原単位）の削減：前年比1%以上削減 ④物流車両におけるCO ₂ 排出量（原単位）の削減：前年比1%以上削減 ⑤自動販売機におけるCO ₂ 排出量（電力使用量）の削減：ヒートポンプ機導入率87%以上
本社部門	①電力使用量削減：前年実績以下 ②車両の燃費向上：前年実績以下 ③OA用紙購入枚数（一人あたり）の削減：前年実績以下 ④ESG意識の啓発：エコマイレージ活動 ^{※1} の推進（定性目標） ⑤環境コミュニケーション：吾妻橋クリーンアップ活動 ^{※2} 実施（10回/年） ⑥廃棄物分別の徹底：分別パトロールの実施（1回/月）
営業支社	①電力使用量削減：前年実績以下 ②営業車両の燃費向上：前年実績以下 ③OA用紙購入枚数（一人あたり）の削減：前年実績以下 ④販促品、商品見本の廃棄物の削減：対前年5%削減 ⑤ESG意識の醸成：エコマイレージ活動の推進（支社ごとに目標設定） ⑥環境コミュニケーション：地域美化活動への参加（支社ごとに目標設定）

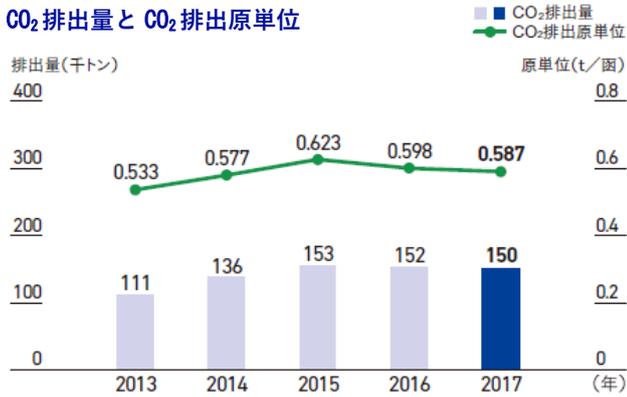
※1 エコマイレージ活動とは
会社主催の環境ボランティア活動（地域美化活動、水源地保全活動など）、社員が独自に行っているボランティア活動などを行うことにより貯めたポイントを金額に換算し、当該地域の社会貢献活動をされている団体へ寄付するアサヒグループ共通のプログラムです。

※2 吾妻橋クリーンアップ活動とは
アサヒ飲料本社周辺で行う美化活動で、昼休み時間を利用し定期的を実施しています。

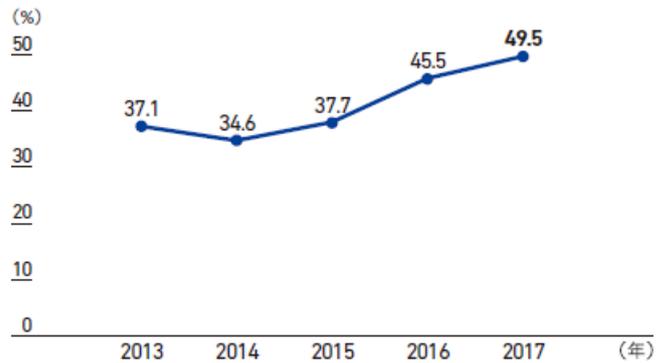
データ集 …物流/自販機/オフィス

物流

CO₂排出量とCO₂排出原単位

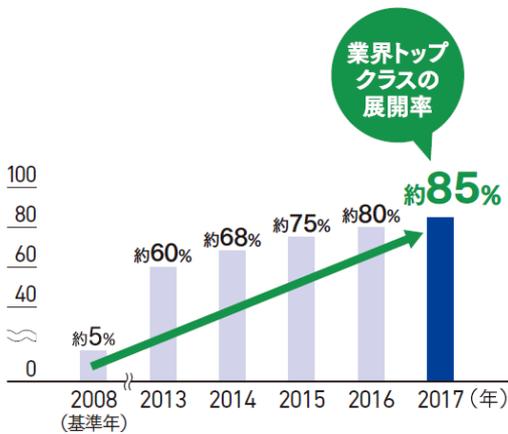


長距離輸送におけるモーダルシフト率



自販機

ヒートポンプ式自販機の展開率の推移

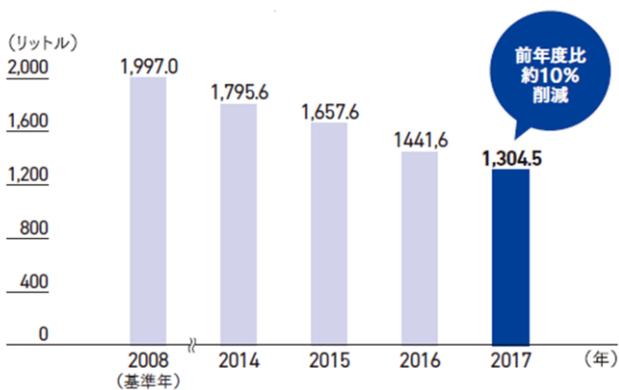


自販機廃棄処理時のフロンガス回収・破壊量

2017年度	約2.5トン
2016年度	約2.8トン

オフィス

営業車両1台あたりの燃料使用量の推移

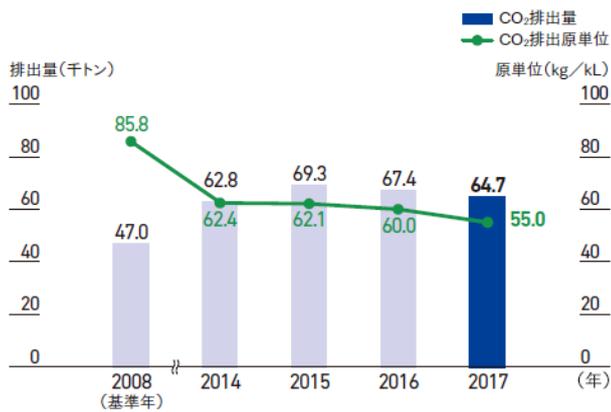


データ集 …工場

工場

■全工場トータルデータ

CO₂排出量とCO₂排出原単位



用水使用量と用水原単位



廃棄物発生量 (2017年度)

廃棄物の種類	排出量 (トン)
コーヒー粕・茶粕	15,054
廃液	6,466
汚泥	5,826
廃油	1,193
びん・ガラス	829
廃プラ	179
木屑	99
一般廃棄物	43
その他	14
鉄屑 (アルミ・ステンレス含む)	8
専ら物	1
蛍光灯・電池	1
合計	29,713

廃棄物再資源化 100%の達成状況

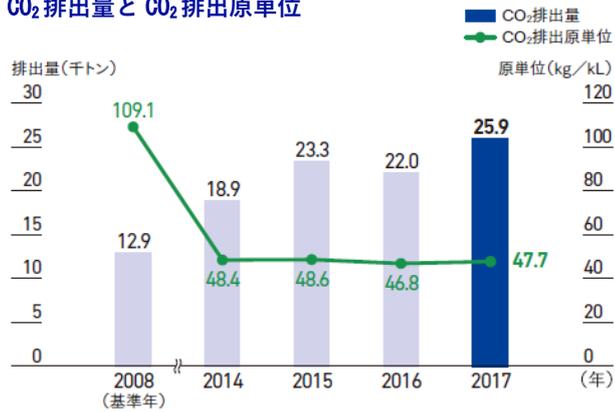
達成年	工場名
1998年	明石工場、北陸工場
2002年	富士山工場
2011年	六甲工場

データ集 …工場

富士山工場

- 2002年 廃棄物再資源化 100%達成
- 2006年 ISO14001 認証取得

CO₂排出量とCO₂排出原単位



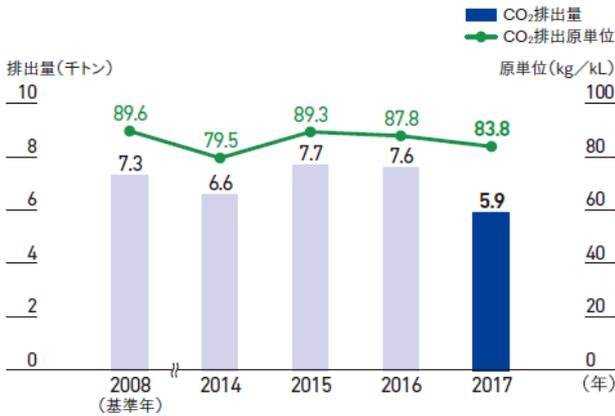
用水量と用水原単位



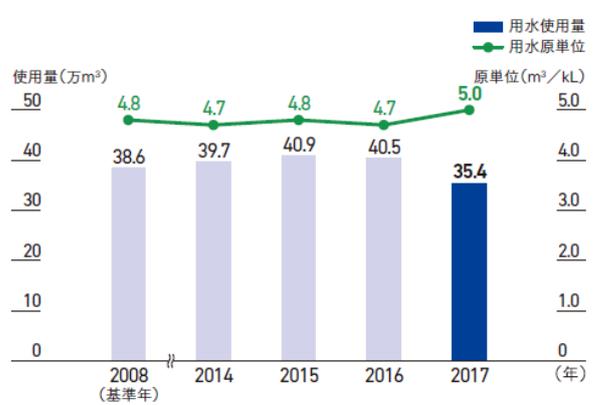
北陸工場

- 1998年 廃棄物再資源化 100%達成
- 2000年 ISO14001 認証取得

CO₂排出量とCO₂排出原単位



用水量と用水原単位



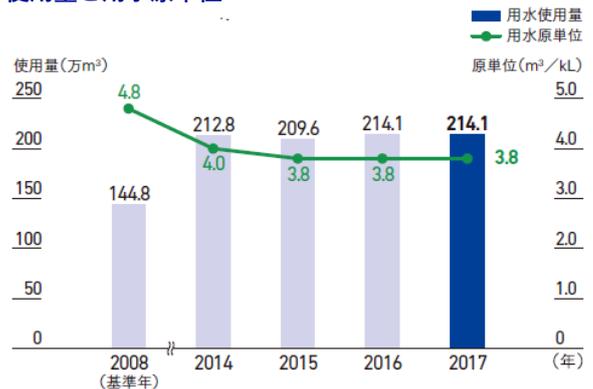
明石工場

- 1998年 廃棄物再資源化 100%達成
- 2000年 ISO14001 認証取得

CO₂排出量とCO₂排出原単位



用水量と用水原単位



ガイドライン

アサヒ飲料グリーン購入ガイドライン

発効日 2001年9月

1. 基本方針

事務用品、資材、什器、販促品、制服等衣類の購入に際しては、環境負荷の低減に寄与するグリーン購入を推進する。

2. 目的

環境保全活動の推進に寄与する。

3. 目標

PET 再利用品などエコ商品が開発されているものについては、100%購入を目指す。

4. 購入の基準

エコマーク、環境ラベルのついている商品を優先的に購入する。取引業者選定に当たっては、エコ商品を取り扱っている業者を優先する。

5. 範囲

オフィスで使用する消耗品。オフィスで使用する機器類。事業活動で使用する資材・器具類、衣類、販促品。

6. コスト増への対応

グリーン購入をするためにコスト増が見込まれるときは、各事業場の判断に委ねる。無駄をなくす努力等で、コスト増を吸収し、グリーン購入を推進する努力をする。

7. その他

本ガイドラインは、社会状況の変化や新たな知見によって、必要に応じて改訂される。

商品・販促品の環境負荷低減のための環境ガイドライン

発効日 2001年9月

1. 目的

「商品・販促品の環境負荷低減のための環境ガイドライン」を遵守することにより、環境保全に配慮した商品開発及び営業活動における廃棄物の削減及びリサイクルの推進に取り組み、アサヒグループの環境保全活動の推進に寄与することを目的とする。

2. 基本方針

2.1：グリーン調達

商品における容器包装及び販促品の製作・採用にあたってはグリーン調達に配慮する。それは、エコマーク・エコラベル認定品の積極的な採用及び使用後のリサイクルに配慮した素材の採用を含む。

2.2：商品開発

商品の開発に際しては、その容器及び包装形態において環境に配慮する。

2.2.1：容器

商品容器の素材については、軽量化、単一素材化、リサイクル可能な素材の導入をはかり、省資源・省エネルギー・リサイクルの推進に努める。

2.2.2：容器包装

容器包装は簡素化をはかり、廃棄物発生量の削減に努める。

2.3：販促品

販促品の製作、採用、使用にあたっては環境負荷の低減に努める。

2.3.1：販促品の素材

販促品の製作・採用にあたっては、その素材について不適正素材の全面的使用禁止及びグリーン調達に努める。また、複合素材及び不燃性素材の使用により、リサイクル（再商品化）の妨げとならないよう配慮する。

2.3.2：梱包形態の見直し

販促品の梱包については、その梱包用素材及び梱包形態において廃棄物の削減に配慮する。それは、梱包用素材のグリーン調達及び個装による過剰包装の見直しを含む。

2.3.3：製作量、在庫の適正化

販促品の製作、使用にあたっては、適正量製作、適正在庫、アイテムの見直しをおこない、不使用による廃棄物が発生しないよう努める。

2.3.4：廃棄物処理

販促品の廃棄物を処理するにあたっては、分別排出および再資源化に努める。

3. リサイクルの推進

リターナブルびん、あき容器樽の回収等、容器リサイクルについては、関係先・お得意先への啓発活動を積極的におこなう。